

そよかぜだより

2013年
2月号

そよかぜ歯科医院のURL
<http://soyokaze-c.com/>

妊娠トラブルと歯周病予防

今年、爆弾低気圧で関東平野部でも大雪に見舞われ、大変でしたが、春一番が吹いてもまだまだ油断は出来ないようです。

そんな寒さの中でも春の気配が... 嫌な花粉症の季節！ 今年も昨年より、場所により2倍、6倍の量の飛散が見込まれるようです。千葉県も2月2日に飛散開始と環境省が発表しました。またニュースでも報じられています。中国からの大気汚染PM2.5も飛来してきてるようです。気になる方は環境省の「そらまめ君」のホームページにアクセスしてみてください。

でも、嫌な事ばかりではありません。同じ黄色をイメージするものでは、福寿草、クロッカス、千葉県の花、菜の花も盛りとなります。黄色い絨毯の菜の花畑に身を置いて一句。

「菜の花や 月は東に 日は西に」
(菜の花が一面に咲いている。春の一日が暮れようとして、ふと気付くと月が東にあり、日は西の空に沈もうとしている)

与謝蕪村

こんにちは。

片桐 理恵と申します。

昨年の10月よりアシスタントとしてお世話になりました。

慣れない所もありますが、楽しく頑張ってますので、よろしくお願い申し上げます。

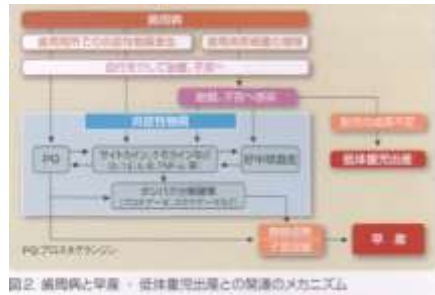


図2. 歯周病と早産・低体重児出現との関連のメカニズム



歯周病が早産・低体重出産のリスク因子となる可能性はメカニズムの点においても明らかにされつつあり、妊婦は口腔内の健康状態の向上を意識することが予防につながる可能性があるだけでなく、生まれてくる子供の口腔内の健康状態の向上、さらには日本人の口腔内の健康状態の向上に貢献できると考えられています。(図4参照)

2. 産科器官への歯周病原細菌の直接の感染
口腔内の歯周病原細菌が血中に入り産科器官にまで達し、直接感染が起るにより早産、発育不全による低体重児出産を引き起こされると考えられています。(図4参照)

1. 歯周病による炎症性物質早期の上昇
歯周病に罹患した歯周組織ではIL-1、TNF- α 、PGI₂などの炎症性物質の上昇が認められますが、これらの分子の多くは分娩に関わる因子でもあるため、早期に頸管熱化と子宮収縮を引き起こされ、早産に至ると考えられます。(図2、3参照)



図6. 歯周病治療が出産に及ぼす影響の効果の結論に及ぼす要因



※図はすべてP&G Professional Oral Health発行のオーラルヘルスと全身の健康より引用

院長から

今回は歯周病と低体重児出産について書かせていただきました。「子供の成長は親の責任。」とよく言われます。私も2児の父親です。非常に耳の痛いことも多いです。特に産まれてきてからも、子供がむし歯にならないように大人は子供に口移しで食べ物を与えない。と以前書かせて頂きました。

このことに加えて今回は出産する前にご両親とも身体的にも精神的にも健康であることにより、丈夫な子供が出産すると考えて頂きたいです。

歯周病も身体的疾患のひとつです。特に糖尿病をはじめとした様々な疾患を併発する場合があります。歯周病が低下していることが原因のひとつとも考えられます。この低体重児出産についてもその原因と考えられています。

この度、諸事情により2月25日をもって退職することになりました。勤務開始から2年という短い間でしたが、衛生士としてたくさんの患者さんとかかわり合い、日々学びながらも楽しく仕事をすることができました。そよかぜ歯科の院長を始め、スタッフの方々にもとてもよくしてもらい感謝しています。

今まで本当にありがとうございました。
河原 由佳